巻頭特集

桑名七盤勝負

桑名発祥の「知の総合競技」、全国へ!

近年、注目が高まる囲碁や将棋。老若男女が世代や性別を超えて親しんでいます。桑名駅前にある「桑名囲碁将棋サロン庵（いおり）」が発祥の「桑名七盤勝負」は、囲碁、将棋、チェス、オセロ、連珠、どうぶつしょうぎ、バックギャモンの7種を同時に行う競技。桑名で誕生した新しい対局スタイルは、全国各地で愛好家を増やしています。

全世代が楽しめるボードゲームの集まる店

桑名駅前のサンファーレにある「桑名囲碁将棋サロン庵（いおり）」。飲食メニューも充実する店内には、囲碁や将棋のほか、70種類以上ものボードゲームがそろっています。

開店したのは、2015年11月。代表の大川英輝さんは当初、子どもたちが集まれる託児所のような場所をつくりたいと考えていたといいます。どんな場所がいいかと悩んでいた時に思い出したのが、自身の幼少期。「母が仕事で忙しいときは、一緒に将棋などをして、同世代の子どもたちやその保護者の大人と時間を過ごしていました」。囲碁や将棋なら子どもから高齢者まで一緒に楽しめると、囲碁将棋サロンを開業したのです。

桑名囲碁将棋サロン庵 代表
大川英輝さん
桑名七盤勝負を多くの人に広めたいと奮闘中。県外から訪れた人には、桑名のおすすめスポットを案内したりして、魅力を伝えています

囲碁や将棋のサロンは有段者やタイトルを獲得した実力者が開業し、来店客を指導するのが一般的。段位を有しない大川さんは対局するのではなく、利用客同士が楽しむ様子を積極的にSNSで発信するなどのPRに力を入れました。

「お客さんは、カタンやチェスなど、他のゲームを持ってきてくださります。そんなときは、道具ではなく、楽しんでいるお客さんの笑顔を写真におさめてSNSに投稿しています」。PR活動が功を奏し、庵はさまざまなゲームの愛好家が集まる唯一無二の場所として人気沸騰。公式団体やプロ、原作者なども訪れるようになっていきました。

次の世界大会は2月10日。年2回、桑名で開催されています

地名を冠した新競技 7種を一堂に楽しんで

2016年11月、大川さんは開業1周年を記念して、すべての競技の対局を交代しながら継続するイベント「8時間耐久対局フェスティバル」（現／8時間耐久ロード）を企画。このとき集まった人たちが、桑名七盤勝負の元となった7種のゲーム愛好家でした。「イベント終了後、一部の方々が2種、3種を同時に対局しはじめたんです。7種同時もできるんじゃないかと試したところ、ハチャメチャながらも面白い試合が見られました」

「みんなが同じ大会に出たら共通の話題ができて、交流がより深まるのでは」と、参加者数人に声をかけ、「桑名七盤勝負」の制作に奮起します。『桑名七盤勝負』という名は、SNSのアンケートで決定。8種目でもほかのゲームを入れても良かったのですが、元になった1周年イベントを基本にしました。語呂が良く、地域の名も入っているので気に入っています。参加者を募集しながら、2カ月でルールを詰めていきました」とほほ笑みます。

横並びになった7種目全てを1手ずつ動かしながら、横に進んでいくのが1ターン。公式ルールやマナーを踏まえながらも、反則ができないよう審判を置くなど新たなルールも設けました。「全種目に触れる機会にしたい」と、開始から20分は投了（降参）を禁止。「自分の持ち時間は45分。20分経過後は、投了して得意種目に専念する取捨選択も大きく勝敗を分けます」と続けます。

桑名の人の思いを胸に 全国、世界へと広めたい

2017年2月に開催された第1回大会は22人が参加。現在は年2回、桑名で世界大会を開催するほか、全国各地で年20回ほどの大会が開かれています。現在、北海道から熊本県まで24支部が活動しています。「各地のイベントの参加者と話をする中で、『お手伝いしてもらえませんか』とスカウトしています。近頃は逆に立候補してくださる方もいます」と大川さん。支部会員の数は年々増え、「桑名七盤勝負」を広めようと、多くの人を巻き込んでいます。

「大会の開催場所の名に変えて実施した方が、その地域の方に馴染みが出るだろうと思うこともありました。ですが一つの対局スタイルとしての広がりを望んでいることはもちろん、桑名で誕生したことや、桑名の地を世界へPRしたいので、名前は変えないと思います」と語る大川さんは、桑名市内のショッピングセンターや幼稚園で個別競技の体験会を開いています。「発祥の地だからこそ、より多くの人に楽しんでもらいたい。いろんなゲームを一気に覚えられる機会でもあります。覚えてみたいと思う人がいれば、どこにでも行きます」と呼びかけます。

囲碁や将棋のプロ棋士や有名なアマチュアも続々と参加する桑名七盤勝負。7種全てで勝利する人はおらず、素人がプロに勝つ機会や、「これだけは負けられない」と、プロの本気が見られる場面も多いそう。「将来的には、日本7都市で桑名七盤勝負を同時開催したい。テレビ中継されたら面白いですね」

全世代で楽しめるボードゲーム。この正月は、新たな競技を覚える入り口として、「桑名七盤勝負」に家族で挑戦してみてはいかがでしょうか。

選手間のコミュニケーションに役立っているのが、大川さん作の「選手カード」。RPGゲームの要素を盛り込み、7種目のレベルが把握できるほか、「ユニークスキル」と呼ばれる欄があり、「日本酒」や「サッカー」など、その人の能力を記載。会話のきっかけを提供しています

❶ ルールが分からないゲームであっても遊べるのが魅力。苦手な競技や知らない競技は対戦相手から教えてもらいながら進めます
❷「にゃんこならべ」は、連珠（五目並べ）に親しみを持ってもらおうと駒を猫にしました。大型量販店などでも販売され、女性や子どもに大人気 ❸ 試合後には感想戦を実施。プロも素人も、対戦を振り返りながら交流を深めます

左から連珠の普及に取り組む福井暢宏（のぶひろ）さんと、愛知支部支部長の井上尊監（たかてる）さん。福井さんは「にゃんこならべ」の開発者。井上さんは、支部長として名古屋大会の開催を計画しています

7種の盤を1列に並べ1手ずつ動かしていきます。並び終えたら自らで対局時計を押し、1ターンを終えます。各選手45分の持ち時間で勝負します

information

桑名囲碁将棋サロン庵

住所	桑名市桑栄町1-1サンファーレ南館2F
営業時間	10:00〜20:00(土日祝は21:00まで)
定休日	木曜
電話番号	0594-88-5088
1日席料	男性1,000円、女性800円、高校生以下600円

文／青野穂波　写真／桑名囲碁将棋サロン庵提供・中村圭作　デザイン／chica